



平成 19 年度仙台支部通常総会
 平成 19 年 6 月 2 日
 於 仙台市青葉区一番町 H. ユニバース仙台

平成 19 年度仙台興譲館寮新年会
 平成 20 年 1 月 26 日
 於 仙台市青葉区角五郎 仙台興譲館

卒業生を送る会
 平成 20 年 3 月 1 日
 於 館長自宅

写真説明

米沢有為会
 仙台支部だより

創刊号

平成20年4月20日

発行者

(社)米沢有為会仙台支部

支部長 中條 仁

仙台市青葉区二丁目6-13-402

TEL 022-215-0236



『仙台支部だより』の創刊にあたって

米沢有為会仙台支部長 中條 仁

来年、米沢有為会は創立百二十周年を迎えます。これに先立ち支部だよりを創刊する事は、誠に意義深いものと思えます。

有為会は郷土の産業振興と後進の育成を大きな柱として事業を展開してきましたが、近年の会員減少により事業遂行は停滞傾向にあり、会員増強が切に望まれております。

来年のNHK大河ドラマ「天地人」の主人公、米沢の基礎造りに貢献した直江兼続が目指したものと、有為会の目指すものは同じであり、大河ドラマに便乗して会員増強を諮るのも一つの方策と思います。

東京と仙台の興譲館寮の運営は有為会の大きな事業です。仙台興譲館は大正年間に創設以来ほぼ九十年、仙台の地で学んだ多数の人材を輩出してきました。

戦後間もない時から昭和四十年代頃までの経済的に厳しかった時代は入寮希望が殺到し選考に苦労した事もありました。社会が豊かになり、少子化が進むに連れ、経済的理由による希望者は減少してきましたが、寮生や会員のPR努力により、近來は貴重な存在となった集団生活体験希望の入寮希望者が増えてきました。現在の日本は、教育や家庭の躰の問題も絡んで家庭内閉じこもりや異常な犯罪が頻発する大きな社会問題を抱えています。寮の共同生活を経験する中で、時には辛抱を強いられつつ切磋琢磨する事は、社会に適応できる逞しい人間に育っていく為に又とない好い機会だと思います。

このような極めて有意義な事業を長期に渡り継続してきた米沢有為会の益々の発展を心から願うものです。

会員倍增キャンペーン

(社)米沢有為会は来年創設百二十周年を迎えます。これを契機に会員倍增キャンペーンが実施されております。会員皆様がお一人一名つつの新会員加入にご協力下さるようお願い致します。現在会員は全国で約千二百名程、仙台支部会員は新年度の新入会員を含めて4月1日現在で七六名加入予定の昨年度卒業生、今年度新入寮生父兄等を含めると4月中に八二名前後になる予定です。本会の継続にはより多くの会員を常時勧誘増員する必要があります。支部活動も、これ迄にプラスした新たな視点から多面的な情報提供や会員の相互交流を図っていくよう努力します。

ご存じのように、本会は郷土置賜地方から国家社会に有為な人材を育てる会として創設されました。奨学金貸与事業や、東京・仙台(かつては札幌、山形にもありました)の学生寮・興讓館(名称から興讓館出身者の寮と誤解され

新しく会員になられた方々

(平成十九年四月～平成二十年四月)

(敬称略) ◎H20新入会員

荒井 典子 池田 壽夫

◎伊藤 容祐 ◎香坂 文夫

◎小関 大揮 小林 匡洋

◎後藤 崇洋 ◎佐藤 智博

◎塩田 秀雄 ◎六戸 智泰

◎森 健太郎

(右記以外の) 入会予定者

一般 一名

寮関係 卒業生 三名

新入寮生保証人 三名

及び現在の寮生保証人の

未加入者 数名(見込)

H20仙台興讓館寮生

(敬称略) ◎H20入寮

那須譲治(東北大院理D)長谷川健二

(公務員受検) 落白祐弥(東北大経4宇

山裕人(東北大法3) 荒井達矢(学院大

経2) 島森拓士(東北大理2) 志村淳

(東北大工2) 宮坂医学院大経2) ◎

香坂文雄(東北大院M1) ◎郷野辰幸

(東北大院M1) ◎塩田紳(東北大法1) ◎

島貴良(平東北大文1) ◎高橋玄(福祉

大)

寮母 小野寺真知子

仙台支部年間行事予定

(本部理事会は省略)

4月26日(土) 4時より会計監査

4時半より第一回支部理事会

5時半より新入寮生歓迎会

(会場:仙台興讓館/寮生会主催)

6月7日(土)

5時より支部通常総会

6時より懇親会(会場未定)

6月21日(土)

米沢有為会通常総会・懇親会

(会場:米沢伝国の杜)

10月25日(土)

4時より芋煮会(会場:仙台興讓館

支部・寮生会主催)

10月又は11月

寄宿舎OB会

(日程:会場未定)

11月又は12月 置賜県人会

12月13日(土)

5時半より忘年会

(会場:仙台興讓館/寮生会主催)

1月24日(土)

5時半より新年会

(会場:未定/寮生会主催)

2月28日(土)

12時半より卒業生を送る会

(館長自宅/館長主催)

3月21日 新入寮生面接

(会場:仙台興讓館)

*以上の他に、会員の交流を促進し輪を広げる、趣味の会や町のおもしろどころ探訪等の臨時行事や、寮近隣住民に有為会・興讓館寮への理解を深めて頂く為の講演会・親睦会などを企画する予定です。

*支部だよりの発刊と会員交流の企画

支部だよりは年複数回発行予定です。編集への参加や投稿(CMでもかまいません)を御願ひします。東京支部のように、会員の交流を促進し、輪を広げるツールとなるようにささやかながら努力するつもりです。

*寄宿舎OB会

甲副支部長を中心に寄宿舎OB会活動を促進し、有為会入会や寮の改修計画への協力PRをしていく予定です。

通常会員	年会費	三、〇〇〇円
特別会員	年会費	七、〇〇〇円
賛助会員	年会費	一〇、〇〇〇円

「米沢」、「仙台」、「有為会」

甲 國信

(仙臺支部副支部長・寄宿舎OB会副支部長)

妙な題をつけたが、要するに雑感である。

東京や大阪に出かけて仙台に戻り、青葉通りのケヤキを見ると、いつもほっとする。

都会の便利さと、田舎の自然が程よくバランスしていて、仙台に住めて良かったとつくづく思う。昭和三十七年の春、大学で学ぶために仙台に来て以来もう四十六年になるから、郷里にいた十八年間の二倍以上を仙台で過ごしたことになる。昨年、定年を迎えたが、一年半の海外出張を除いて、仙台を離れたことがない。それだけ長い間住み、住み心地も良いと思っているのに、仙台人としての意識は希薄で、いまだに米沢人、置賜人と思っている。

郷里の比重が大きいのは、私に限らないだろうが、私は育った米沢盆地の自然のせいとも思っている。春から初夏にかけてと、秋の自然の美しさはすばらしい。明治初年に東北、北海道を旅したイギリスの女流旅行家イザベラ・バードは、新潟から小国を経て小松に入り、米沢盆地の穀物や果物の豊

富な様子を、その著書「日本奥地紀行」

(高梨健吉訳、平凡社ライブラリー)で東洋の桃源郷(アルカディア)とたたえた。この賛辞は川西町のホームベージュを飾っている。ただ、はじめての外国人を見ようと集まった群衆の中には、宿の部屋を深夜まで覗き込むものがいて閉口したようである。小松を発つ時には千五百人も集まったそうだから、未曾有の大事件だったのだろう。ちなみに、訳者は小松出身で慶応大教授を務められた方である。

学生時代の三年半、仙台興譲館寮の寮生として米沢有為会のお世話になった。在寮した時期は高度経済成長が始まって間もない頃で、家計に余裕などないところでの大学入学だったから、安い寮費で暮らせることは有り難かった。経済的に助かったばかりではない。人とのつながりを得たことも有り難いことである。寮での共同生活の思い出を共有する当時の寮生十数人がおよそ四十年を経た後、毎年、仙台か米沢に集まっている。

その晩はタイムスリップして昔の寮生にもどり、旧交を温めるのをこの上ない楽しみとしている。

正月には有為会の会長名で寮に酒が届いた。当時の宇佐美洵会長は三菱銀行頭取であったが、まもなく日銀総裁になられ、米沢出身者にこんな方がお

られると驚いた。

大学の寮に入っている友人はいたが、一地方の育英会の寮は珍しく、なぜ米沢有為会が寮を持てたのか不思議に思っていた。最近になって、松野良寅先生の書かれた「米沢有為会 百年のあゆみ」を読んで、人材の育成を重視された最後の藩主上杉茂憲公の発案により明治十八年に発足した「米沢教育会」と、明治二十二年に、当時学生で、後に日本建築界の創始者となる伊東忠太磨を目的として発足させた「有為会」とが、「米沢有為会」の源流であり、才覚と実行力のある方々の努力と多くの支援者のおかげで現在の姿になったことが理解できた。八十九年の有為会誌に掲載された「百年のあゆみ」は七十七ページに及ぶもので、まだ詳しくは読んではいないが、郷里を出て広い世界を知った先人たちの米沢人批判なども紹介されていて、興味は尽きない。

ちなみに、著者の松野先生は、私が興譲館高校の生徒だった当時、英語の先生として在職しておられ、のちに山形大の教授になられた。

お世話になった有為会ではあったが、寮を出て以来、申し訳ないことながら長いこと会に対して音信不通にしていた。いざ入れ入会するつもりでいたが、忙しさにかまけて手続きをとらず、入

会したのは比較的最近のことで、定年が近づき、郷里との心の中での距離が近くなってからである。元寮生ということ、寄宿舎OB会を担当することとなったが、中條支部長や御供興譲館長はじめ長年支部の運営に尽力して来られた方々のご指導のもと、微力を尽くしたいと思っている。

寄宿舎OB会報告

昨年の12月1日(土)、東京四谷のスクワール麹町において、平成19年度興譲館寄宿舎OB会総会並びに懇親会が、東京、仙台、山形の各寮のOB30名が出席して開催されました。参加者のほとんどは東京近郊在住のOBで、米沢からは1名、仙台からも1名の参加でした。

大関修敬会長は会長挨拶のなかで、来るべき寮改修に向けて、OBに対し協力を強く要請されました。下條泰生有為会長の来賓挨拶の後、議事に入り、活動報告、会則の改訂と東京支部規則が提案され了承されました。

続いての懇親会では、OBから寮生活の様々なエピソードが披露され、なかには東京空襲時のエピソードもありました。飲んで語るうちに、2時間があっという間に過ぎてしまいました。

(甲 國信)

会員交流の広場▼同好会のご案内や

会員紹介・PRコーナーです▲

今回はアンケートにお答え頂いた方を紹介します。(お二人共仙台台興譲館 寄宿舍OBのお医者さんです。)

遠藤三郎氏 老兵は消えゆくのみとのコメントですが、診療にも応用された寮生を簡単に転がす気功の修煉成果かまたまたお元気です。囲碁、将棋とも三丁五段。最近はおソコンにチャレンジとの事です。

松山完一氏 S31~35 仙台台興譲館舎生(父上も戦前テニスコートがあつた時代のOB)現在は週二日整形外科医の生活。囲碁六段。趣味/ゴルフ、雑本「江戸湯留」

会員名簿の趣味欄を見ると、囲碁、ゴルフ、ウォーキング・山歩き等を含めたスポーツ、芸術・音楽鑑賞、読書等が複数名おられます。同好の士で、釣り・小旅行・トレッキング・史跡探訪・食へ歩き・料理・園芸・造園・写真・絵・書・俳句・同人誌・茶・華・ダンス等の 趣味の会結成は如何ですか。 *次号からの投稿を歓迎します*

伊東忠太ら学生 6 名が発起人となり明治 22 年 11 月 23 日(神嘗祭)有為会が結成されたいきさつは、有為会誌創立 100 周年及び 110 周年特集号(松野良貞氏記)に詳しい。今回連載する日記は翌 23 年の元旦から、1 月 11 日欧米館での米沢大親睦会で忠太が同土加入要請演説をぶった日迄の分である。 当時忠太氏らは空齋時代と自称した合宿状共同生活を送り切磋琢磨していた。

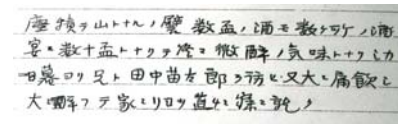
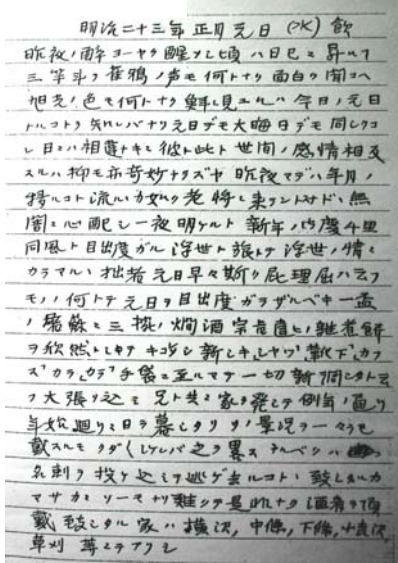


伊東忠太氏自画像 (Tの襟章がついている)

浮きよのたび 3 (米沢有為会の生みの親 伊東忠太氏の日記) -その1

明治二十三年正月元旦(水)飲* 昨夜ノ酔ヨーヤク醒メシ頃ハ日ニ昇リテ三竿斗リ 雀鴉ノ声モ何トナク面白ク聞コエ旭光ノ色モ何トナク鮮(ヤカ)ニ見ユルハ今日ノ元旦ナルコトヲ知レバナリ 元旦デモ大晦日デモ同シクコレ日ニハ相違ナキニ彼ト此ト世間ノ感情相反スルハ抑モ亦奇妙ナラズヤ 昨夜マデハ年月ノ移ルコト流ルルカ如ク 老(オ)将(サ)ニ来ラントスナド、無闇ニ心配シー夜明ケルト新年ノ御慶(ビ)千里同風ト目出度ガ爾浮世ト(?)旅トテ浮世ノ情ニカラマル、拙者元旦早々斯ク屁理屈ハ云フモノノ何トテ元旦ヲ目出度ガラザルベキ一盃ノ屠蘇ニ三椀ノ爛酒宗旨違ヒノ雑煮餅ヲ欣然トシテキコシメシ 新シキ「シャツ」「靴下」「カフス」カラ「カラ」手袋ニ至ルマデ一切新調シタト云フ大張り込ミ 兄ト共ニ家ヲ発シテ例年ノ通り年始廻リニ日ヲ暮シタリ ソノ景況ヲ一々(??)戴スルモクダクダシケレバ之ヲ略ス ナルベクハ名刺ヲ投ゲ込ミテ逃ゲ去ルコトト致シタルガマサカソーモナリ難クテ是非ナク酒肴ヲ頂戴致シタル家ハ 横沢、中條(政恒)、下條、小森沢、草刈等々ニテアリシ

塵積テ山トナルノ譬(オ) 数盃ノ酒モ数ヶ所ノ酒宴ニ数十盃トナリテ終ニ微酔ノ気味トナリシカ 日暮ヨリ兄(祐彦)ト田中苗太郎ヲ訪ヒ又大ニ痛飲シ大ニ酔フテ家ニ帰リ直チニ寝ニ就ク



支部会員訃報

高橋恵一様 平成一九年一月七日(逝去) 慎んでご冥福をお祈り致します

編集後記

▼会の活性化のツールにと米沢、東京に做い会報を創ると宣言してから、ずるずると時間が過ぎ、昨年度発刊予定が新年度になつてしまいました。今後は編集長に段取りをお任せします。独自の持ちネタとして、私の曾祖父、祖父と縁深い伊東家輩出の、我国建築家の草分けであり、若干二才で米沢有為会を設立した伊東忠太氏特集を担当する事になりました。第一部はメモ魔として膨大な資料を残した忠太氏が有為会を設立した当時の明治三年正月の日記『浮きよのたび3』を数回に渡り連載します。建築家の端くれ、私のHP「エムアイティ建築研究所」も検索してみてください。(M) <http://www.h2.dion.ne.jp/~mit>

▼編集長とはいいながら、小生は単なるワードでレイアウトを担当しただけでした。パソコンの能力を見直しました。これで何軒の印刷屋がつぶれたのだから。(T)

編集長 滝口 政彦
発刊世話人 御供 政敏